



第2世紀に踏み出すDJIレポート！

1995年2月にDJIバイマンスリーレポート準備号No.1としてスタートしたDJIレポートは、今号がNo.101、第2世紀に踏み出します。私たちを取り巻く社会の中の記録のありように着眼し、アーカイブと記録管理を考えるDJIレポートを、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2015年 6月30日 小川 千代子

情報公開制度の成熟、文書主義の衰退

最近の報道とSNS情報から感じること

SNS世界と「フツー」の世界では、流れくる情報の質や内容にかなり大きな差が感じられる。6月28日にフェイスブックで見た二つの記事は、アーカイブと記録管理を考える上で興味深いテーマと材料で構築されていた。一つはNHKが情報公開制度に則り開示請求を行った大正天皇実録の記事。開示された同資料は、数年前には黒塗りだらけであったものが、黒塗りの多くはなくなったという話。情報公開制度の普及と成熟を感じさせる内容だ。

もう一つは、現在各地の自治体から首相官邸などに提出された意見書が、実際にどのように取り扱われているのかという、素朴な疑問から確認を試みた人のレポートだ。このレポートを見ると、現在政府をはじめとする役所の基本とされる文書主義に依拠する情報のやり取りが、必ずしも円滑に行われていないのかも、という不安に駆られる。

■大正天皇実録、黒塗りの大部分は見直し公開

2015年6月27日付NHKニュースウェブ (<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20150627/k10010130031000.html>) は、「13年前に公開された大正天皇の活動記録、「大正天皇実録」を、宮内庁は個人情報保護などを理由に一部を黒塗りにした当時の措置を見直し大部分を公開したことを伝えた。画面に登場するのは、13年前の黒塗りだらけであったものと、今回情報公開制度により開示されたものの両方。

個人情報として前回は黒塗りされていた部分が今回公表された結果、専門家が「肩すかしだった」というコメントも含め、以前は必要以上

に神経をとがらせていた宮内庁も、大正天皇の実像を公表することに前向きになってきたことを感じさせる報道であった。

■官邸提出の自治体提出の意見書は今どこに

フェイスブックで首相官邸に「突撃取材」した人のレポート「2015/6/27 23:01・ガジェット通信」を見て、レポーターに対する官邸担当者の上から目線にもらい泣きならぬ「もらい憤慨」。<http://netallica.yahoo.co.jp/news/20150627-01020496-gtsushin>

憤慨したのは「ここは、そういう内容を扱うところじゃない！おそらくだが、内容がきちんとしていたら、総理がご覧になっているかと思うが、それ以上はお答えできません！」という担当者の言葉だ。「内容がきちんとしていたら」って??。役所はすべて文書を用いる文書主義で動く。内容がきちんとしてないと、その文書の扱いはどうなるの？それと、電話口の人がその件の担当でない場合は、本来の担当者につなぐのは当たり前でしょ？

この事例、青森県外ヶ浜町が内閣総理大臣、防衛大臣、衆参両議長に提出した安全保障関連法案（戦争法案）の廃案を求める意見書の取扱いを、第三者であるジャーナリストが確かめようとしたのである。首相官邸に電話をかけたら、用件を言い終わらないほどのタイミングで担当者は声を荒げ上の言葉を発したとか。

官邸担当者の対応のお粗末ぶりから、官邸では受け取った文書を「ちゃんと」取り扱っているのかを勘ぐりたくなる。昨今の政治の混乱は、役所の文書事務を乱し、ついには文書主義が衰退にまで影響を及ぼしているだろうか。

(小川 千代子)

おもな内容

DJIレポート2世紀へ／情報公開制度の成熟と文書主義の衰退……………1
散歩道 宮崎県文書センター／JFK展／LSF賞……………3

DJIレポート No.101 20150630

文献紹介／消息……………4
あしあと／活動／巻末随想……………5

【アーキビストの散歩道】

宮崎県文書センター

4月3日、宮崎県文書センターを訪れた。2002年開館の文書センターは、すでに10年以上の歴史を刻んでいる。1990年代そして、閲覧カードを作ってもらい、調査したいことについてセンターの様式に書き込んで、資料の有無についての調査をお願いした。併せて、センター建物2階の会議室を見せていただき、建物の今後について何か計画があるのかを聞いてみた。

文書センター自体は平成28年春にはお向かいの6号館??に資料とともに移転することが決定している。レトロな雰囲気の現文書センター建物(写真)は観光施設として別の場所に解体・移築する予定。隣接する現駐車場スペースには新たに防災庁舎の建設が決まっているとのことだった。

幸い、建物がすっかり失われるようなことはなさそうですが、同時に現在の場所で現在の姿を見ることが出来るのは、今年度中限りらしい。う〜ん。。。また、現在の宮崎県庁本館も、新防災庁舎ができると役所の機能はそちらに移る予定。

かつて文書センターができる前には、当時の担当者の方と「もし、新しい庁舎を作ることになったら、



現在の本館建物こそ宮崎県の象徴として文書センター(公文書館!)に転用するのがいい」と話し合ったことがある。この思いは今も変わらない。

4月3日に訪れた宮崎県文書センターでは、まだ公開する目録は整備されていないということだった。目録の整備と利用者への公開が待たれる。

★レトロな建物の宮崎県文書センターを訪れるなら、ぜひ今年度中にお出かけください。

宮崎県文書センターのホームページ

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/somu/kanko/bunka/index.html>



JFK展 秘密指定と秘密解除のルールが使われ方

4月28日午後、授業の一環としてJFKの展示を見学した。着眼点は秘密指定と秘密解除のルール日米比較。今回の展示は写真撮影不可だったので、具体事例の画像提示も不可。E.O.12353とか、E.O. 11645などの大統領令が、秘密解除の根拠とされている。展示された記録の中のいくつかには、書類自体にスタンプで秘密解除が行われたことを示しているものがあつたことからそれと知ることができた。

日本側の資料も展示されていた。日本では、極秘とか秘などのスタンプや、用箋右肩に「極秘」「秘」などが印された秘密資料が、特段の処理をすることもなく、展示されていた。こちらは、秘密解除に関する法令制度整備が不十分であることを結果として示した格好。本誌前号記事「パ・ブ・コ・メ」は、公文書管理法ガイドラインに、特定秘密保護法の出現で必要に迫られた秘密指定、秘密解除の問題が盛り込まれ、これに国民の意見を募ろうとするものであった。

4月20日、図書館サポートフォーラム賞受賞しました!



LSFの略称で知られる図書館サポートフォーラムは、毎年図書館サポートフォーラム賞の表彰を行っている。今年度は17回目で、漆原宏氏、戸塚隆哉氏、そ

れにDJI国際資料研究所代表の小川千代子が表彰。「記録管理とアーカイブズの啓蒙を通じて図書館活動の発展とその社会的役割の増進に寄与」したことが、表彰理由。誠にありがたく名誉なことと、素直に嬉しく感激した。

表彰式と懇親会は4月20日(月)夕刻、東京千代田区一ツ橋の日本教育会館9階喜山倶楽部光琳の間で、50人余りが参集した。

図書館サポートフォーラムは日外アソシエーツが事務局を担当している。詳細はLSFのHPを参照されたい。

LSF HP : http://www.nichigai.co.jp/lib_support/index.htm



●◆▼やぶにらみ文献紹介【●図書◆論文▼逐次刊行物■その他】

●アーカイブ基礎資料集 小川千代子・菅真城編著、2015.5.1 大阪大学出版会、B5 判 168 頁、1500 円＋税
最近、大学でアーカイブをテーマとした授業が増えている。期限付きとは言え、アーカイブ専門家を配置する組織＝つまりアーキビストの就職先も増えてきた。仕事をするには、いつもその根拠になる法令や、専門家としての行動規範を身近に備え、折に触れ参照する必要がある。そこで、法令や行動規範に関する資料をまとめたものがほしい、そんな思いを形にした資料集が出版された。アーカイブを扱うにはルールとマナーがとても大切で、そのルールとマナーの根拠を手元に置かなければ、アーカイブの勉強は進まない。というわけで、著者としては本誌読者のみなさまにもぜひ座右の一冊としておすすめします。

●情報貧国ニッポン～課題と提言～ 図書館サポートフォーラムシリーズ 山崎久道 日外アソシエーツ発行 紀伊国屋書店発売、223 頁、2200 円＋税

●ちょっと笑ってみませんか 小川千代子
同姓同名、生まれた年まで同じ小川千代子さんだけど、私じゃない！そんなご縁にほだされて買ってみました。私は笑いの感性が鈍いらしく、なかなか笑えない。困ったもんです、小川千代子さん。

●あなたの隣の秘密結社 ナレッジエンタ読本 31 秦野啓著 メディアファクトリー、218 頁＋参考文献、あとがき、索引 1100 円＋税

【驚異の部屋特集】

●愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎 小宮正安 集英社新書ヴィジュアル版、2007 年 辻堂市民図書館の蔵書にあったので早速借りた。ドイツ語圏の富裕層が手当たり次第に珍しいものを入手し、それらを一つの部屋に集めて保管するということから始まった驚異の部屋。スイス、ドイツ、オーストリアの事例が多くまとめられている。著者藤代幸一先生は大学時代の恩師。懐かしかった。

●古代憧憬と機械信仰 - コレクションの宇宙 ホルスト・ブレーデカンプ、藤代幸一、津山拓也訳、法政大学出版局、1996 年

●驚異の部屋 - ハプスブルク家の珍宝蒐集室 エリーザベト・シャイヒャー、松井隆夫、松下ゆう子訳、平凡社、1991 年



●真夜中の博物館～美と幻想のヴンダーカンマー (TH Series ADVANCED) 樋口 ヒロユキ、アトリエサード、B6 判 315 頁、2700 円＋税
図書館の ILL で借りて読み始めた。でもあまりに面白いので購入。サブカルチャーのスタンスで、ヴンダーカンマーを説明するその語り口がとても素敵。

(ち)

◇◆◇アーキビストの消息 (順不同、敬称略)◇◆◇ 【凡例：■機関●個人】

1 月 31 日付退職 ✽長らくご苦勞様でした。

●松岡資明氏 日本経済新聞社退社

3 月 31 日付退職 ✽長らくご苦勞様でした。

●八津川正義氏 広島県立文書館長、全史料協会会長

●有友 至氏 国立公文書館修復専門員

2015 年 4 月 1 日付採用 ✽おめでとうございます ✽

●加藤 諭氏 東京大学文書館助教

●戒 子卿氏 東京学芸大学大学史資料室専門研究員

●秋山 淳子氏 札幌市公文書館専門員

●中根 有里氏 札幌市公文書館専門員

●佐藤 真美氏 札幌市公文書館専門員

4 月 1 日付異動

●大賀 妙子氏 国立公文書館専門調査員

●陣内 容子氏 埼玉県立文書館長、全史料協会会長

●阿久津 聡氏 群馬県立渋川青翠高等学校(群馬県立文書館古文書係)

■国立公文書館 3 月 31 日付
次長 築島達郎氏 (内閣府に外向)

同 4 月 1 日付

次長 佐々木奈佳氏(総務省公事等調整委員会事務局審査官)

総務課長 井内利秋氏(内閣官房内閣広報室調査官)

業務課長 船坂和夫氏(環境省総合環境政策局環境保健部企画課調査官)

統括公文書専門官 米川恒夫氏(首席公文書専門官)

総務課長 森久保和伸氏(総務省公事等調整委員会事務局審査官)

★このコラムに情報をお寄せ下さった皆様へ、お礼申し上げます。

●特集 千代子のあしあと●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポート No.101(電) 2015年7月1日 up、6
頁、PDF. www.djichiyoko.com Web 国際資料研究所

★本誌では、巻末奥付に、PDF の場合は(電)、紙バージョンは(紙)の
マークをつけました。ご確認ください!(^^)!

■DJIレポート総目録 No.85~100、4月26日 up
www.djichiyoko.com Web 国際資料研究所

▼RMSJ ニュースレター4月号 No.70 アーカイ
ブズ関係機関協議会、アーカイブサミット、第2

回公文書管理法5年見直し合同研究集会、脚本ア
ーカイブズ・シンポジウム

▼レコード・マネジメント No.68、2015.3 翻訳 倫理と
アーカイブの仕事 —入門とケーススタディー(その3)
カレン・ベネディクト著、李東真と共訳

●アーカイブ基礎資料集、菅真城と共著、大阪大学
出版会 1500円+税

■記録管理学会研究プロジェクトで発表 5月23日、
丸亀市民センター、山崎久道氏らと連名

DJI国際資料研究所の主な活動 2015年3月16日~2015年6月30日

<執筆>

- ・『DJIレポート』No.101 2015.6.30発行 8頁
www.djichiyoko.com にPDF掲載
- ・DJIレポート総目録 No.85~100、4月10日 up
www.djichiyoko.com にPDF掲載
- ・『レコード・マネジメント』No.68 翻訳 倫理とア
ーカイブの仕事 —入門とケーススタディー(その3) カレン・
ベネディクト著、李東真と共訳
- ・『RMSJ Newsletter』No.70
- ・『アーカイブ基礎資料』菅真城と共著、大阪大学出版会

<受賞>

- 4月20日 第17回図書館サポートフォーラム賞
- <講演>
- 4月20日 第17回図書館サポートフォーラム賞受賞と
DJIレポート

<出講>

- 4月11,18,25日 5月9,16,30日、6月6,13,20,27日 藤
女子大学図書館情報学課程「図書館概論」「図書館情報資
源概論」札幌
- 4月14,21,28日 5月12,26日 6月2,9,16,23,30
日 東京大学大学院情報学環学際情報学府「アーカイブの
世界」東京
- 4月16,23,30日 5月7,14,21,28日 6月4,11,18,25
日 中央大学「記録管理論」東京

<調査>

- 3月24日 日仏会館図書室、東京
- <見学>
- 3月18日、4月28日 JFK 国立公文書館本館、東京
- 3月31日 新江の島水族館、神奈川
- 4月1~3日 宮崎県高鍋町武家屋敷旧吉田邸宿泊見学
- 4月1日 宮崎県立図書館郷土資料室、宮崎県立博物館、
民家園、西都原古墳公園
- 4月2日 球磨川市房ダム公園(熊本)、西都原古墳資料館
- 4月3日 宮崎県美々津歴史民俗資料館、宮崎県文書セン
ター、宮崎県庁
- 5月22日 高松市公文書館、香川県
- 5月31日 猫展 名古屋市立博物館、名古屋

<参加>

- 3月18日 脚本アーカイブズシンポジウム、国立国会図
書館、東京
- 3月29日 川崎で原発国民投票事務ボランティア
- 4月6日 5月18日 6月17日 公文書管理法5年見
直しにむけた提言書策定会議、学習院大学、東京
- 4月14日 千種台39会東京支部会幹事会、東京
- 4月20日 第17回図書館サポートフォーラム賞授賞式、
日本教育会館喜山倶楽部、一ツ橋、東京
- 4月28日、6月17日 記録管理学会理事会、八雲クラブ、
東京
- 5月8日 藤女子大学親交会歓迎会、ガーデンパレス札幌
- 5月22,23日 記録管理学会研究大会、丸亀市、香川県
- 6月3日 マイナンバー講習会 NOMA 東京
- 6月7日 辻堂地区防災協議会講演会、湘南工科大学講堂
- 6月8日 国際アーカイブズの日記念講演会、ベルマーレ
飯田橋、東京
- 6月10日 全史料協役員会、埼玉県立文書館、浦和
- 6月14日 戦争をさせない1000人委員会【とめよう!
戦争法案 集まろう!国会へ 6.14国会包囲行動】2万
5000人以上参加
- 6月21日 ジュネーブ・アーカイブ・ボランティア完了
記念パーティ、大阪府池田市
- 6月23日 戦争への道をゆるさない6.23東京集会、日
比谷野外音楽堂
- 6月30日 平和憲法最大の危機を撥ねかえす!「戦争法
案」を廃案に!6.30緊急集会 きゅりあん「人権・平和
委員会」をつくろう! 大田・品川市民会議 大井町、東京
- <主催>
- 4月28日、6月17日 記録管理学会理事会、八雲クラ
ブ、東京
- 5月26日 6月26日 ドーナツの会、藤女子大学小川
研究室、札幌
- <その他>
- 5月11日 OSIレポート提出 NY/USA
- 5月19日 カネカ大阪本社表敬訪問、大阪
- 6月22日 (株)ライアス表敬訪問、名古屋
- 6月23日、30日 東大赤門前で学生からピラもらう!

■巻末随想

■その(1) 宮崎の武家屋敷

4月はじめ、宮崎に行った。不思議なご縁で昨年つながりを得たトモコさんのおじいさんの実家の武家屋敷見学が目的。

トモコさんのおじいさんは住友化学の社長、会長を務めたが戦後公職追放にあう。インターネットで検索すると、渋沢史料館のデータベースでそのあたりの経過を追うことができた。その活動の足跡は愛媛県新居浜市に顕在するが、公職追放の後、生家宮崎県高鍋町の武家屋敷で過ごしていたのだろう。トモコさんによれば、この武家屋敷にはおじいさんの手帳が何冊も残されていたという。その手帳の処理に悩んでいたトモコさんが筆者に電話してきたのが、今年の8月だった。手帳は関係の保存機関が引き受けるということで落ち着いたと聞いた。

それだけならすぐにも切れてしまうかと思われるご縁だが、実はトモコさんのおばあさんと筆者の祖母は実の姉妹というのがご縁の発端。更に不思議なご縁は、トモコさんが今はジュネーブにほど近いフランスの村に在住であったこと。地理的に近いことも手伝い、今年のジュネーブ・アーカイブ・ボランティアの期間中、何度も会った。そして、誘われて今年は宮崎・高鍋の、トモコさんのおじいさんの家に泊まりに行った。

「あばら家」とトモコさんは言うけれど、台所やトイレなど水回りは現代風に改修されている。広々としたお座敷は、仲間同士が集まるにはピッタリだ。ゼイタクな武家屋敷に泊めてもらい、夜も更けるまで仲間で楽しく語らった。

■その(2) 異動

3月の最後の週は、異動の内示の時期。今年も長らくの知人友人が異動することになった。この季節、私はお見送り専門である。なんだか寂しいけど、でも、数年後には再会できることもある。特に公立の文書館で中堅以上のキャリアを積んだ人はそうだ。

今年も3月20日過ぎ、知人からメール着信。文書館から異動の内示があったという。「今度の職場では、若いひとたちに、文書館での経験とその楽しみ、喜びをしっかりと伝えてくださることを心から願ってやみません。文書館の資料により、事実を自ら見つけだし、真実に向き合うたしかな力を身につけた若者をたくさん世に送り出してください。」と送る言葉。

筆者も、今は大学での教育にも手を染めているが、もっと若い人たち、小中高生と接する機会があれば、連携教育が実現できるかもしれない。これ、素敵だ。夢が膨らむ。これから大人になる人たちの中にアーカイブの理解が深れば、将来のアーカイブにしっかりした好影響をもたらすと期待する。

■その(3)「卒業」?

4月14日は今年度の東大情報学環での授業の初日、教室には受講生の姿はなく、今年度の授業はキャンセルとなった。2005年から非常勤講師を務めてきたが、これで2014年度を以て授業「アーカイブの世界」は終了。と思った。だが、その次の週から受講生が教室に現れて、今年度も授業は続けることとなった。でも、キャンセルかな、と思った時はいささか感慨深いものがあり、ちょっとメモしたものを以下に掲げる。

1975年から1987年まで東大百年史編集室で過ごした日々を合算すると、私のアーカイブ人生のうちの22年を東大にかかわってすごしてきた。2005年から数えてちょうど10年情報学環で伝統的アーカイブの世界について学生諸君とともに学んだ。この間に『アーカイブを学ぶ』『デジタル時代のアーカイブ』の2冊が岩田書院から出版され、国際資料研究所のサイトには東京大学大学院情報学環「アーカイブの世界」の成果報告書は次の4本をアップした。

■2014年度成果報告・「連続体再考」試論

■アーカイブの今! 報告書 2013年

■試訳 ICA アーカイブの利用原則 翻訳 2012

■報告書 大学アーカイブの理想 調査報告書 2009

また、受講者の何人かはすでに大学で教べんをとり、あるいは公文書館の現場に勤務している。その意味では、少しは社会的に成果還元ができたようにも思う。

ちょうどこの10年間は社会的にデジタル・アーカイブへとアーカイブの軸足が移行する時代であった。技術の進歩も含め、アーカイブといえばデジタルであり、画像情報のウェブ発信である、という認識が定着しようとしている。

そのような流動的なアーカイブ状況のもとで、領域の異なる新進気鋭の学生諸君との交流は大変刺激的かつ楽しいものであった。公文書館や文書館という伝統的アーカイブについて、学環の学生諸君に知識を得てもらうためのいささかのお手伝いのできたのであれば、大変ありがたい。

また、授業以外の様々な場面でも、学環の諸先生方には大変お世話になった。とりわけ、東京大学文書館の実現に関しては、私自身の1980年代からの「夢」の実現そのものであり、そんなシーンにもいささかのつながりを持ち続けることができて、大変うれしい経験であった。可能なら、100年史スタートのときに現れた大久保利謙先生に倣い、東大150年のころ「私は100年史にかかわった小川です」といつつ東大文書館を訪問したいと思う。東大150年は2027年、あと12年、健康第一で過ごしたい。(ち)

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 ISSN 1342-632X

DJILレポート DJIホームページ: <http://www.djichiyoko.com> No. 101 20150630

発行所: 国際資料研究所 Documenting Japan International Email: djearchiv@yahoo.co.jp 代表 小川 千代子
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 fax+ phone 0466-31-5061 DJIBlog: <http://djearchiv.exblog.jp>